

SPECIAL

詳細は展覧会HPへ

①プレゼントキャンペーン #マイクワント

60年代風の衣服や小物を身につけてご来場された方に、先着で特製ステッカー(非売品)をプレゼント!

※このほかにも別バージョンのステッカーがもらえる企画をご用意しています。ステッカーを集めると展覧会ブックレット(非売品)も先着でプレゼント! ※なくなり次第終了。

②PEEK-A-BOOで60年代風ヘアカット!

ヘアサロン「PEEK-A-BOO」では展覧会会期中、60年代風ヘアカットを特別にオーダーできます! 本展の半券(QRチケットも可)をご持参の方には割引も。

図録 展覧会の魅力を凝縮した決定版!

「時代を変えたミニの女王 マリー・クワント」

3,960円(税込) グラフィック社 発行

※デザイン等変更になる可能性があります



グッズ マリー・クワントが活躍した60年代当時の世界観を再現したグッズ

黄色い缶に入った イングリッシュティ

1960年代にマリー・クワントから発売されたメイクアップ用クレヨンが入っていた黄色い缶をイメージしたパッケージに、イギリスらしい濃くて美味しい紅茶のティーバッグを入れました。



展覧会限定アイテムとセットになったお得な前売セット券を販売予定!

※詳細は展覧会HPにてご案内します。

黒×白のモノトーンの マグカップ

マリー・クワントのデザインの中に登場するストライプや水玉。その使い方の自由さ、デジタルで描かれていないことで感じる揺らぎを大切に作ったマグカップです。



音声ガイド 豪華出演陣で展覧会がさらに楽しく!

ピーター・バラカンと梅原裕一郎が登場!



ピーター・バラカン 1951年ロンドン生まれ。ロンドン大学日本語学を卒業後、1974年に音楽出版社の著作権業務に就くため来日。現在フリーのブロードキャスターとして活動。「バラカン・ビート」(インターFM)などを担当。

梅原裕一郎 静岡県出身。主な出演作は、ジョジョの奇妙な冒険 ストーンオーシャン(ウェザー・リポート)、ワールドジ男子(三間貴之)、悪役令嬢なのでラスボスを飼ってみました(クロード・ジャンヌ・エルメイア)等多数。

ブロードキャスターのピーター・バラカンが、マリー・クワントが駆け抜けた当時のロンドンについて、音楽やカルチャーなどの話題も交えて語ります。人気声優の梅原裕一郎も登場! 展示の見どころも分かりやすく解説。是非お楽しみください。

貸出料金: 650円(税込)

映画情報

『マリー・クワント スウィング・ロンドンの伝説』

本展の半券提示で当日一般より200円引き

「自由に自分らしく」世界に革命を起こした伝説のデザイナー

ビートルズ、ツイッキー、ローリング・ストーンズと共に60年代スウィング・ロンドンというムーヴメントを起こし、ファッションで世界中を熱狂させたマリー・クワント。その知られざる素顔とデザインの秘密に迫る傑作ドキュメンタリー! Bunkamura ル・シネマにて11/26(土)よりロードショー。



※状況によって上映スケジュール、営業状況等は変更となる可能性もあります。

本展のみどころ

- ① 60年代のストリートカルチャーのバイオニア的存在だったマリー・クワントの業績をたどる展覧会
- ② クワントの出身地の英国では約40万人が訪れた注目の世界巡回展がついに日本で開催!
- ③ マリー・クワントのコスメが日本に上陸した1971年以前のファッションアイテムも多数お披露目

入館料(税込)	一般	大学・高校生	中学・小学生	前売券
前売	1,500円	800円	500円	
当日	1,700円	1,000円	700円	

※学生券をお求めの場合は、学生証のご提示をお願いいたします。(小学生は除く) ※障がい者手帳のご提示でご本人様とお付添いの方1名様は半額となります。(一般850円、大学・高校生500円、中学・小学生350円) 当日窓口にてご購入ください。 ※未就学児は入館無料。 ※チケット販売情報詳細はBunkamura HPにてご確認ください。

本展は会期中すべての日程で【オンラインによる事前予約】が可能です。

ご予約なしでもご入場いただけますが、混雑時にはお待ちいただく場合がございます。予約方法等の詳細は展覧会HPにてご確認ください。

ザ・ミュージアムのチケットは便利なオンラインチケット「MY Bunkamura」をご利用ください。お得な前売券のほか、当日券の購入もチケット窓口にはばば便利! MY Bunkamuraで購入すると当日券が100円引き。

MY Bunkamura

検索

[SNS] 本展公式Twitter @maryquant_2022 Bunkamura ザ・ミュージアムInstagram @bunkamura_the_museum

Bunkamura ザ・ミュージアム

渋谷・東急百貨店本店横

〒150-8507 東京都渋谷区道玄坂2-24-1

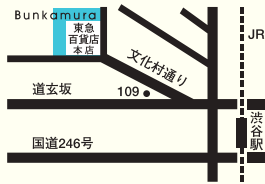
お問合せ Tel:050-5541-8600(ハローダイヤル)

www.bunkamura.co.jp/museum



展覧会HPはこちら

◎JR線/渋谷駅(ハチ公口)より徒歩7分
◎東京メトロ・銀座線・京王・井の頭線/渋谷駅より徒歩7分
◎東急・東横線・田園都市線・東京メトロ・半蔵門線・副都心線/渋谷駅(A2出口)より徒歩5分
※当館には専用駐車場はございません。東急百貨店本店駐車場をご利用ください(有料)。



日本初の回顧展

MARY QUANT

マリー・クワント展

2022. 11.26(土) — 1.29(日) 2023. 1/1(日・祝)

休館日: 12/6(火) 1/1(日・祝)

開館時間

10:00~18:00(入館は17:30まで) 毎週金・土曜日は21:00まで(入館は20:30まで)

※状況により、会期・開館時間等が変更となる可能性があります。
主催: Bunkamura、ウィクトリア・アンド・アルバート博物館、朝日新聞社
特別協賛: 株式会社クラブコスメチックス、株式会社 マリークワント コスメチックス
後援: アリテック・カウンスル、J-WAVE
お問合せ 050-5541-8600(ハローダイヤル)
最新情報はBunkamura ザ・ミュージアムHPをご確認ください。

美しい時代へ 東急グループ



カーディガンドレスの「レックス・ハリソン」を着る ジーン・シリンフン 1962年 © John French / Victoria and Albert Museum, London



ストライプのアンサンブルを着る2人のモデル 1973年春 Image courtesy Mary Quant Archive / Victoria and Albert Museum, London

A V&A Exhibition - Touring the World



マリー・クワントのファッションも変えた ミニの女王

マリー・クワントのブティック「バザー」のショッパーを持つモデル 1959年 Image courtesy of Mary Quant Archive / Victoria and Albert Museum, London

マリー・クワントとアレキサンダー・ブランクett・グリーン 1963年8月29日(部分) © Robert Young/ Mirrorpix

マリー・クワントは？



「退屈なファッションなんて意味がない。衣服は自分自身やなりたいたい自分を表現するための手段なのよ」
マリー・クワント、1966年

ミニスカート、ツイギー、ローリング・ストーンズ 世界が熱狂した60年代 ロンドン・カルチャーを牽引した、マリー・クワント

1950年代ロンドンのファッションシーンに彗星のごとく登場してミニスカートを広め、60年代ロンドン発のカルチャームーブメント「スウィング・ロンドン」の顔となったマリー・クワント(1930年～)。日本ではデジのアイコンのコスメラインで広く知られるクワントは、若い女性のファッションに革命を起こすとともに、世界中にその商品を広めた女性企業家のパイオニアとして、出身地のイギリスで最も親しまれるデザイナーの一人です。本展ではヴィクトリア・アンド・アルバート博物館(V&A)より来日する約100点の衣服を中心に、小物や写真、映像等を展示。1955年から75年にかけてのマリー・クワントのデザイナーとしての活動、時代を切り開いた起業家としての歩みをたどります。

スウィング・ロンドン

1950年代、ファッションは一部の裕福な人々のためにパリのオートクチュールから発信されてきました。そんななか、クワントは25歳のときに若者向けのブティック「バザー」を開店。走ったり踊ったりしやすいミニスカートをはじめ、自分自身が着たいと思うアイテムをデザインし販売したところ、爆発的な人気となりました。伝統と階級意識が残る英国において、若者たちが主体的にストリート発の流行を作り出した「スウィング・ロンドン(躍動するロンドン)」。

ビジネスの先見性

夫のアレキサンダー・ブランケット・グリーンと実業家のアーサー・マクネアら有能なビジネスパートナーに支えられ、クワントはアメリカやオーストラリア、アジアに事業を拡大。ブランドロゴの先駆けとなるデジマークを商標登録し、現地企業に生産・販売を任せるライセンス契約を取り入れ、より多くの女性が手に入れられる既製の量産体制を実現しました。また、PVC(ポリ塩化ビニール)によるレインウェアやジャージー素材のドレスをヒットさせるなど、新素材を最大限に活用し、消費者の選択肢を広げました。

ドレス「ミス・マフェット」を着るパティ・ボイドとローリング・ストーンズ
 1964年
 Photograph by John French
 © John French / Victoria and Albert Museum, London



マリー・クワントと、夫でビジネスパートナーのアレキサンダー・ブランケット・グリーン
 1960年
 Courtesy of Terence Pepper Collection.
 © John Cowan Archive

2019～20年のヴィクトリア・アンド・アルバート博物館での展示風景
 ©Victoria and Albert Museum, London



マリー・クワントが成し遂げた6つのデザイン革命

ピナフォードレス
 1960年
 V&A: T.71-2018
 © Victoria and Albert Museum, London



女性のためのパンツスタイル

組み合わせが楽しめるアンサンブル「アランデル」を着るモデルたち
 1973年秋
 Image courtesy Mary Quant Archive / Victoria and Albert Museum, London



スキニーリブセーター



ラウンジウェアとホットパンツ

マリー・クワントのミニドレスとそっくりのパンツを着るケリー・ウィルソンとモデル 1966年
 Photo Duffy © Duffy Archive

MARY QUANT?

新しい時代のロールモデル

女性の権利を求める活動が盛んになり始めた当時、クワントは新しい女性の役割を率先して果たしました。1966年の大英帝国勲章受勲の際にも、自身が手掛けたジャージー素材のアイテムで式典に臨むなど、自らデザインした服を着て公の場に頻りに登場しました。ヴィダル・サスーンによる印象的なショートカットと自らデザインした服を着こなす姿は、「マリー・クワント」というブランドのスタイルを確立。パンツやジーンズといったアイテムや、スーツや軍服の生地を女性用に仕立て上げ、ジェンダーや階級意識などのステレオタイプに果敢に立ち向かったのです。



2019～20年のヴィクトリア・アンド・アルバート博物館での展示風景
 ©Victoria and Albert Museum, London

PVC素材

アリゲーター・レインウェア社のレインコート
 V&A: T.89-2018
 © Victoria and Albert Museum, London



2019～20年のヴィクトリア・アンド・アルバート博物館での展示風景(部分)
 ©Victoria and Albert Museum, London

ミニスカートだけじゃない!

ファッションに革命を起こしたクワントの功績を示すアイテムを本展では一挙ご紹介!

ジャージードレス

ジャージードレス
 1966～67年
 UK, Museum nos. T.79-2018.
 © Victoria and Albert Museum, London



タイツ

マリー・クワントのタイツと靴
 1965年ごろ
 Image courtesy Mary Quant Archive / Victoria and Albert Museum, London

